

成人期抑うつ症状に及ぼす小児期体験、主観的社会的地位、自尊感情の多因子相互作用

井上 猛, 林田泰斗, 東山 幹

東京医科大学 精神医学分野

【研究の背景】

主観的社会的地位は、うつ病を含む多くの精神疾患、身体疾患と関連していることが報告されている (Scott et al., 2014)。しかし、主観的社会的地位がどのように抑うつ症状の発症メカニズムに関与しているかは明らかでない。一方、小児期被養育体験、自尊感情もうつ病発症、抑うつ症状出現に影響する。小児期体験と成人期抑うつ症状の間には長い時間経過が存在するため、両者の間には何らかの媒介因子が存在すると推定され、主観的社会的地位と自尊感情が媒介因子である可能性がある。しかし、成人期抑うつ症状に対するこれらの多因子の作用に主観的社会的地位がどのように影響するかは不明である。

【目 的】

本研究は小児期の親からの被養育体験と自尊感情が成人期抑うつ症状に及ぼす影響において、主観的社会的地位がどのような直接的あるいは間接的な効果を有するかを、一般成人を対象に共分散構造分析により検討した。

【方 法】

以下の自記式質問紙による調査を行い、同意と有効回答が得られた 404 人の一般成人ボランティアを対象とした。

4 つの質問紙: Patient Health Questionnaire-9 (PHQ-9)、Subjective Social Status (SSS)、Parental Bonding Instrument (PBI)、Rosenberg Self-Esteem Scale (RSES) を使用し、それらの変数 (得点) 間の関連について共分散構造分析を用いて解析した。本研究は、東京医科大学及び北海道大学病院の倫理委員会の承認を得て実施した。

① PHQ-9 日本語版: 4 件法 9 項目のうつ症状評価尺度 (Muramatsu et al., 2007)

② SSS: 自分が属する階層を主観的に自己評価するスケールである。この質問紙は、「仮に現在の日本の社会全体を、次のような 10 段階の層に分けるとするならば、あなた自身はこれのどこに入りますか？」と回答者に尋ねるものである (Tsuno et al., 2015)。本研究では、1 を最も高い階層、10 が最も低い階層と定義した。

③ PBI 日本語版: 子供の頃の両親の養育態度を思い出し、25 項目を 4 件法で評価する。「養護」「過保護」の 2 因子からなる (Kitamura et al., 1993)。

④ RSES 日本語版: 自尊感情を評価する 10 項目からなる自記式質問紙である (Rosenberg et al., 1965)。合計スコアが高いほど自尊感情が高い。本研究では Yamamoto らによって作成された RSES 日本語版を使用した (Yamamoto et al., 1982)。

統計学的解析は、MPlus7.4 (Muthén & Muthén) を用いて共分散構造分析により解析した。モデルの適合度は Root Mean Square Error of Approximation (RMSEA < 0.08 が許容範囲) と Comparative Fit Index (CFI > 0.95 が許容範囲) で評価した。

【結 果】

共分散構造分析の結果、自尊感情は成人期抑うつ症状を直接的に低下させていたが、小児期の親からの被養育体験 (養護と過保護)、主観的社会的地位は成人期抑うつ症状に直接的な影響を与えなかった。小児期の親からの被養育体験は主観的社会的地位と自尊感情に直接的に影響し、主観的社会的地位は自尊感情に直接的に影響することにより、それぞれ成人期抑うつ症状に対して間接的に有意な影響を与えていた。このモデルは成人期抑うつ症状の変動の 31% を説明

し、モデルの適合度は良好であった。

【考 察】

本研究では、小児期の親からの被養育体験のうち、低養護と過保護が自尊感情を低下させることによって成人期抑うつ症状を増強していた。我々はこれまで、小児期体験が感情気質、神経症的特質、対人関係感性への影響を介して、成人期の抑うつ症状に影響を与えることを、一般成人を対象とした研究で報告してきた(Nakai et al., 2014; Ono Y et al., 2017; Ono K et al., 2017; Otsuka et al., 2017)。本研究の結果は、感情気質、神経症的特質、対人関係感性と同様に自尊感情も、小児期体験の成人期抑うつ症状に対する影響の媒介因子であることを明らかにした。

さらに、本研究は、小児期の親からの被養育体験の自尊感情と成人期抑うつ症状に対する効果において主観的社会的地位が媒介因子であることを初めて明らかにした。これまで、主観的社会的地位がうつ病、うつ症状と密接な関連があることは大規模な疫学的研究で指摘されてきたが(Scott et al., 2014)、その機序は明らかではなかった。本研究の結果は、主観的社会的地位が小児期体験の効果を媒介することにより、また自尊感情に影響することにより、成人期抑うつ症状に影響を与えることを示唆している。

【臨床的意義・臨床への貢献度】

本研究は、小児期の親からの被養育体験の成人期抑うつ症状に対する影響において、主観的社会的地位と自尊感情が媒介因子であることを示唆している。さらに、主観的社会的地位の抑うつ症状に対する媒介効果は自尊感情によってさらに媒介されていることも示唆された。主観的社会的地位の抑うつ症状における媒介効果を検討した研究はこれまでになく、本研究が抑うつ症状発症における主観的社会的地位の役割解明に寄与することが期待される。

【参考・引用文献】

Nakai Y et al: The influence of childhood abuse, adult stressful life events and temperaments on depressive symptoms in the nonclinical general adult population. *J Affect Disord* 158, 101-107, 2014.

Scott KM et al: Associations between subjective social status and DSM-IV mental disorders: results from the World Mental Health surveys. *JAMA Psychiatry* 71:1400-8, 2014.

Ono Y et al: The influence of parental care and overprotection, neuroticism and adult stressful life events on depressive symptoms in the general adult population. *J Affect Disord* 217:66-72, 2017.